

令和8年度病害虫発生予察注意報第6号

令和8年8月18日
愛 知 県

作物名：果樹全般（モモ、ナシ、ブドウ、カキ、カンキツ等）

病害虫名：果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 やや多い

3 注意報発表の根拠

- (1) 新城市に設置した予察灯における、7月第3半旬から8月第2半旬までの誘殺状況は、ツヤアオカメムシで49頭（前年10頭、平年20頭）と過去10年で2番目に多く、チャバネアオカメムシで61頭（前年21頭、平年34頭）と過去10年で3番目に多い（図）。
- (2) 蒲郡市に設置した予察灯（R6年調査開始）における、7月第5半旬から8月第2半旬までの誘殺状況は、ツヤアオカメムシ83頭（前年19頭、前々年202頭）、チャバネアオカメムシ19頭（前年6頭、前々年41頭）で、発生の多かった前々年に次いで多い。
- (3) 県内の一部果樹園で果樹カメムシ類の飛来を確認している。
- (4) 7月下旬に行ったヒノキ球果の口針鞘数調査では、早い地域で8月上旬、多くの地域で9月上旬までに離脱すると推定されている。よって今後広い地域で飛来が予想される。
- (5) 名古屋地方気象台8月13日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みであり、果樹カメムシ類の活動に好適な条件となる。

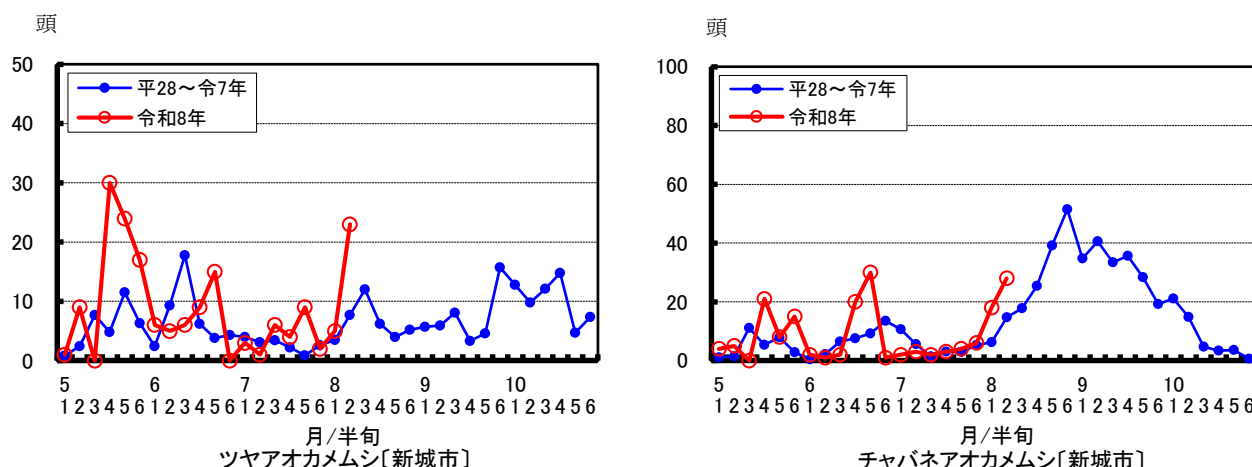


図 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、夜温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多い点を参考に、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園や山林に近い園では特に注意する。

- (2) 台風等による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性があるため注意する。
- (3) 飛来を確認したら、ネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤など各作物で登録のある薬剤で防除する。なお、合成ピレスロイド剤を連続使用すると天敵への悪影響が大きいため注意する。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp>)

5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話: 0 5 6 1 - 4 1 - 9 5 1 3